

市川総合病院小児科

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

教授	福島 裕之	小児循環器学
講師	佐々木 悟郎	小児内分泌代謝学、臨床遺伝学
助教	蜂屋 瑠見	小児内分泌代謝学
助教	岩下 憲行	小児循環器学
臨床専修医	木村 尚喜	小児科学一般
臨床専修医	阪本 えりか	小児科学一般
臨床専修医	手塚 舞花	小児科学一般

2. 成果の概要

1) 小児有熱性尿路感染症の疫学的研究（福島）

日本人小児における広域 β -ラクタマーゼ関連有熱性尿路感染症に関する初の多施設共同研究。リスク因子は、有熱性尿路感染症の既往と最近の抗生剤使用である。ほとんどの有熱性尿路感染症患児は、抗生物質の選択にかかわらず臨床的に改善する。(Ohnishi T et al. International Journal of Infectious Diseases. 2022;125:97-102)

2) 小児患者におけるインフルエンザワクチンの効果に関する多施設共同研究（福島、山田

(2019年度在籍)

2013/14 シーズンから 2020/21 シーズンまでの小児患者におけるインフルエンザワクチンの効果を調査した。合計 29,400 人の小児が登録された（インフルエンザ A、B、検査陰性はそれぞれ 9347 人、4435 人、15,618 人）。インフルエンザ A、A (H1N1) pdm09、B に対するワクチン効果は有意であった。効果が最も高かった年齢層は、インフルエンザ A および B の両方で 1~2 歳であった。(Shinjoh M et al. Vaccine. 2022;40(22):3018-3026)

3) 肥満における脂肪組織の慢性炎症（蜂屋）

肥満脂肪組織における炎症はメタボリックシンドロームの分子基盤である。脂肪組織には脂肪細胞、血管構成細胞、免疫細胞、線維芽細胞など様々な間質細胞が存在し、これらの間には、免疫系と代謝系のクロストークが存在する。(Hachiya R. et al. Inflammation and Regeneration. 2022;42(1):13)

3. 学外共同研究

担当者	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
福島裕之 ほか全員	小児患者におけるインフルエンザワクチンの効果に関する多施設共同研究	慶應義塾大学医学部 小児科学教室	東京都	新庄 正宜
福島裕之 ほか全員	川崎病の急性期治療の有効性に関する多施設共同前向きコホート研究(PEACOCK)	東京都立小児総合医療 センター	東京都	三浦 大
福島裕之 ほか全員	小児有熱性尿路感染症の疫学的研究	国立病院機構埼玉病院	埼玉県	大西 卓磨
佐々木悟郎 蜂屋 瑠見	内分泌代謝疾患の遺伝子型・核型・表現型 関連等に関する研究	慶應義塾大学医学部 小児科学教室	東京都	長谷川 奉延
佐々木悟郎 蜂屋 瑠見	副腎皮質機能低下症における副腎クリーゼ 発症の前向き観察研究	慶應義塾大学医学部 小児科学教室	東京都	石井 智弘
佐々木悟郎	小児1型糖尿病の治療・予後改善のための 多施設共同研究	小児インスリン治療研 究会	京都市	菊池 透 (埼玉医 科大学)
蜂屋 瑠見	肥満における脂肪組織の慢性炎症に関する 基礎研究	名古屋大学環境医学研 究所分子代謝医学	名古屋市	菅波 孝祥

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費 科研費の場合は種別も記載
蜂屋 瑠見	代謝ストレスによる慢性炎症のエピゲノム制御機構の解明	日本学術振興会 科学研究費 助成金・基盤研究 (C)

5. 研究活動の特記すべき事項

学会招待講演・特別講演・教育講演

講演者	年月日	演題	学会名	開催地
蜂屋瑠見	2022.11.1-3	YEAR BOOK 肥満・やせ・栄養・脂質代謝	第55回日本小児内分泌学会学術集会	Web

6. 教育に関する業績、活動

教育ワークショップ・FD研修

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
福島裕之	2022.8	慶應義塾大学病院臨床研修指導医養成ワークショップ	ディレクター	東京都 新宿区

医師国家試験委員会

氏名	年月日	タイトル	内容
福島裕之	2022.4 - 2023.3	医師国家試験委員会	委員として試験問題作成

他の大学・研究機関等における学生・大学院生を対象とする講義

福島裕之 佐々木悟郎	2022.5-7	小児科学講義	和洋女子大学看護学部	千葉県 市川市
福島裕之 蜂屋瑠見	2022.5-7	小児科学講義	松蔭大学看護学部	神奈川県 厚木市